





## 緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ  
蒐集シ既往現在ノ状勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ  
刊行シ、今ヤ昭和九年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レ  
リ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二  
ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト  
爲ス。

各編收錄スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ  
報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等  
ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術  
ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調  
査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新  
ニ收錄シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナ  
キヲ保セザルニ依リ漸次之力改善ニ努メ時世ノ  
要求ニ應セシム所アラムトス。

昭和十一年三月

福井縣總務部

# 昭和九年福井縣統計書 第一編

## 凡 例

本編ハ昭和九年又ハ昭和九年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和八年若ハ昭和八年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一暦年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ別記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ満サルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

# 昭和九年福井縣統計書目次

## 第一編 土地及戸口等

總 説	1	37 年齡階級別死亡(現住人)	21
土 地		38 原因別死亡(現住人)	22
1 土地總段別	4	交通及通信	
2 官有地	4	39 官設鐵道線路及敷地	24
3 民有有租地地積及貿易價格	4	40 官設鐵道運輸	25
4 民有無租地	5	41 私設鐵道	26
5 免租年期地地積及貿易價格	6	42 私設鐵道運輸	26
氣 象		43 郵 便	30
6 測候所	6	44 電 報	31
7 氣壓氣溫及濕度	6	45 電信線路及線條	31
8 平均氣壓	7	46 電話加入者數	32
9 平均氣溫度	7	47 市內電話線路及線條	32
10 平均濕度	7	48 市外電話線路及線條	33
11 平均雲量	8	49 電話料收入	33
12 降水日數及降水量	8	50 諸 車	33
13 降雪日數及期節	8	51 海岸延長及港灣	34
14 快晴日數	9	52 港灣ノ狀況	34
15 曙天日數	9	53 燈 臺	35
16 暴風日數	9	54 浮 標	35
17 結霜日數	10	55 船 舶	34
18 最多風方位	10	56 港灣入港船舶ノ隻數及噸數	36
19 風ノ速度	10	57 敦賀浦據斯德間汽船乘降客人員	36
20 風ノ平均速度	11	土 功	
21 沿海及河川流域雨量	11	58 水害員數	37
22 地方暴風雨信號所	12	59 水害損失價額	37
23 暴風雨應位置	12	60 工事別土木費決算	37
24 測候用無線電信機	12	61 工種別土木費決算	37
25 地震計	12	社 寺 及 宗 教	
26 地震計=現ハレタル震動	13	62 神社及神職	38
戸 口		63 寺院及僧侶	38
27 世帯人口ノ一(郡市別)	13	64 各宗派別寺院	39
28 世帯及人口ノ二(市町村別)	14	教育慈惠及褒賞	
29 人口階級別市町村數及人口	18	65 行旅病人	39
30 推計人口	18	66 行旅死亡人	40
31 本籍人口及現在人口並現住戸數	18	67 救護法=依ル救護	40
32 人口動態總覽(現住地別)	19	68 社會事業ノ一(感化教育)	40
33 年齡及身分別婚姻	19	69 社會事業ノ二(育兒)	42
34 夫妻相互ノ年齡別婚姻	19	70 社會事業ノ三(幼兒保育)	42
35 夫妻相互ノ年齡別離婚	20	71 社會事業ノ四(窮民救助)	44
36 月別出生及死產	21	72 社會事業ノ五(職業紹介)	44

73	社會事業ノ六(宿泊救護).....	45
74	社會事業ノ七(公設市場).....	45
75	社會事業ノ八(公設食堂).....	46
76	社會事業ノ九(公益質屋).....	46
77	社會事業ノ十(免囚保證).....	46
78	軍事救護.....	46
79	篤行奇特者.....	47

## 兵 事

80	壯丁教育程度種別.....	47
81	壯丁體格検査.....	48
82	壯丁身長及體重最高最底.....	48
83	海軍志願兵.....	48
84	日本赤十字社社員及年貢金.....	49
85	愛國婦人會.....	49

## 議 會

86	貴族院多額納稅議員互選者.....	50
87	衆議院議員選舉.....	52
88	縣會議員選舉.....	53
89	縣會議員選舉無効投票.....	54
90	縣會及縣參事會.....	54
91	市會議員選舉.....	54
92	市會及市參事會.....	55
93	町村會.....	55

## 官 公 吏

94	縣廳各部分課.....	55
95	休職官吏更員職員.....	55
96	縣職員(課別).....	56
97	市吏員.....	57
98	町村吏員.....	58

## 財 政

99	縣市町村水利土功組合歲入歲出.....	59
100	直接稅負擔(決算).....	59
101	國 稅.....	59
102	地 租.....	61
103	所得稅.....	60
104	家督相續稅.....	62
105	遺產相續稅.....	62
106	第三種所得稅種類別決定額.....	62
107	織物消費稅.....	64
108	營業收益稅.....	64
109	酒造稅.....	66
110	國稅滯納人員及金額.....	66
111	租稅外國庫收入.....	66
112	國庫支出縣經費.....	68
113	縣歲入.....	70

114	縣歲出.....	70
115	縣 稅.....	72
116	縣稅滯納處分.....	73
117	特別會計ニ属スル縣歲入歲出.....	74
118	福井市歲入.....	74
119	福井市歲出.....	75
120	福井市稅.....	76
121	福井市瓦斯事業費歲入.....	76
122	福井市瓦斯事業費歲出.....	76
123	福井市水道事業費歲入.....	77
124	福井市水道事業費歲出.....	78
125	町村歲入.....	78
126	町村歲出.....	80
127	町村稅.....	82
128	普通水利組合歲入.....	82
129	普通水利組合歲出.....	83
130	水害豫防組合歲入.....	84
131	水害豫防組合歲出.....	84
132	縣有財產ノ一.....	85
133	縣有財產ノ二.....	86
134	縣有財產ノ三.....	86
135	福井市基本財產.....	87
136	町村基本財產.....	87

## 其 他

137	瓦 斯.....	87
138	瓦斯製造高及消費高.....	87
139	瓦斯火口數及料金.....	88
140	令達公布件數.....	88
141	收受發送文書件數.....	88

# 總 説

## 位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十五度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路二晝夜ヲ隔テ遠ク浦塩ト相對ス。

## 地 勢

越前ハ四面山ヲ統ラシ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走リ大日、油坂、蠅帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ヶ嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈競ノ諸山ト爲リ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛驒ノ境ニ聳エ一千九百六十二米白山火山葉ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟠屈セリ一脈アリテ國見、鷲巣、越知ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激浪岩ヲ喰ム地多ク北端餘脈盡クル所僅砂丘ヲ形成ス。

河川ハ概ね東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ干保ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ルルニ及ビテ流域ニ帶々灌漑ス平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐饒ナリ。

若狭ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、八ツ峯西方ニ青葉山等ヲ峰巒國境ヲ限り北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ鈍ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲シ農業ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八糠ニ達シ嶺北沿岸一帶ハ屈曲ニ乏シク港灣ニ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚ダ多ク頗爾肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雜極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ヶ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狭灣ニシテ古來斷層、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ裏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

## 廣 表

總面積四千二百六十四方糠餘ヲ有シ廣表全國四十六府縣中第三十三位ニシテ山梨縣ニ比シ狹ク富山縣ニ比シ稍太ナリ。然レモ山地三分ノニ占ムルヲ以テ廣表ノ割合ニハ利用面積渺シ

## 土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬五千七百七十町歩、內國有地五百六十二町六段、民有地二十三萬三百七町四段ナリ。

民有有租地ハ十八萬三千四百十八町八段步ニシテ民有地ノ約八割ニ當リ民有無租地及免租年期地ハ四萬六千八百八十八町六段ナリ。國有地ハ山林四千七百四十四町三段、公私立學校及官公署敷地七百十八町三段ナリ。無租地ハ保安林四萬四千四百町二段步、社寺地百五十三町六段、公私立學校及諸官衙公署敷地百二十五町一段、墳墓地百八十二町步、用惡水、溜池、砂防地、井溝、堤塘、道路等ハ千二百六十八町七段其ノ他ノ土地二百七十一町二段ナリ。年期地ハ總テ四百八十七町八段步アリ。

## 氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ國レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラル傾向ニ在リ。尙溫度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ殊ニ冬季ハ積雪多ク各種產業ニ影響スル處多シ。

昭和九年一月中ノ平均溫度ハ八十九度ニシテ同年中ノ平均溫度ハ八十一度ナリ。氣溫ノ最高ハ八月ノ三十六度三分ニシテ最底ハ一月ノ零下八度九分ナリ。又降水日數ハ一月ニ最モ多ク二十九日、三月ハ二十五日、二月、十一月ハ各二十三日、其ノ他ノ月ニ在リテモ毎月十日ヲ降ルコトナシ。同年中ノ降水日數ハ二百二十二日ニシテ雨天ハ殆ド三分ノニ占ム。降水量ハ一月三月、七月、九月、十一月ニ最モ多ク何レモ三百糠以上ニ達シ一年間ヲ通ズレバ實ニ二千七百三十五糠餘リ算ス尙昭和八年十二月十四日初雪、昭和九年三月三十日終雪ナルガ故ニ降雪期間百七日ニ及ビ最深積雪五尺三寸五分ニ達セリ。又昭和九年中ノ快晴日數ハ僅ニ二十二日、曇天ニ百二十八日、暴風三日、結霜日數五十九日等ナリ。(福井測候所調査ニ依ル)

## 戶 口

### 世帶及人口

昭和十年十月一日現在ノ本縣一市十一郡ノ世帶總數ハ十三萬三千五百三十四、總人口六十四萬六千七百四十八人ナリ。總人口中男三十一萬六千四百三十二人、女ハ三十三萬三百十六人ニシテ女百人ニ付男九十六人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ織維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口六千九百二十五萬一千二百六十五人ニ比較スレバ0.93%ニ該ノ府縣中第四十三位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就イテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對ヘル割合ハ調查毎ニ遞減シタリ。總人口六十四萬六千七百四十八人ヲ昭和五年ノ六十一萬八千百四十四人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬八千六百四人、割合ニ於テ4.6%ノ增加ニシテ、人口減少ヲ承シタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ比スレバ著シキ人口增加ト言フベキモ全國平均增加割合7.4%ニハ猶遠リ及バズ。

### 人口ノ分布

次ニ人口ノ縣内分布ヲ見ルニ七萬五千二百七十三(11.6%)ハ福井市ニ、其ノ他ノ郡部ニ在リ。各郡中人口ノ最モ多キハ坂

井郡ノ十萬三百十六(15.5%)ニシテ大野郡ノ七萬九千八百四十七(12.3%)今立郡ノ六萬三千三百十五(9.8%)丹生郡ノ五萬八千四百七十六(9.0%)吉田郡ノ四萬九千五百二十六(7.7%)之ニ亞ギ大飯郡ノ一萬七千五百六十(2.7%)最モ少シ。市郡ノ人口増減ヲ檢スルニ大正十四年乃至昭和五年ニ於テ丹生及大飯ノ二郡、昭和五年乃至昭和十年ニ於テ丹生、三方、遠敷及大飯ノ四郡ノ減少シタルヲ除ケバ他ハ何レモ兩期ヲ通シ其ノ人口ヲ增加シタリ。

昭和五年乃至昭和十年ノ五箇年ニ於ケル人口增加ノ最モ大ナルハ福井市ノ一萬一千七十四ニシテ、吉田郡ノ七千百九十、足羽郡ノ四千二百二十三、大野郡ノ二千六百五十六、今立郡ノ二千五百六十三、敦賀郡ノ二千百七十五順次之ニ亞グ。然レドモ之ヲ增加割合ヨリ見ルトキハ、福井市ノ17.2%最モ高ク以下吉田郡ノ17.0%、足羽郡ノ10.4%、敦賀郡ノ5.1%、今立郡ノ4.2%、大野郡ノ3.4%等ノ順序トス。

### 人口ノ密度

本縣ノ面積四千二百六十四・四八方糸ヲ以テ總人口六十四萬六千七百四十八人ヲ除ストキハ一方糸百五十二人ト爲リ全國平均百八十一人ヨリ稍々低シ、市郡ノ人口密度ヲ檢スルニ福井市ハ一萬五千四百五十六人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田郡ノ三百十五人最モ高ク、足羽郡ノ二百八十七人、坂井郡ノ二百四十三人、敦賀郡ノ百八十人、今立郡ノ百七十二人、丹生郡ノ百六十人順次之ニ亞ギ大野郡ノ六十二人最モ低シ。

### 人口動態

昭和九年中ノ婚姻ハ五千六百六十四人、離婚六百八十二人ニシテ出生ハ男九千九百二十八人、女九千三百十八人、計一萬九千二百四十六人ニ達シ男ハ女ヨリモ六百十人多ク生產シタリ同年中死亡セルモノハ男八千三十七人、女八千二百五十八人、計一萬六千二百九十五人ナルガ故ニ出生、死亡ノ差ハ二千九百五十一人ノ自然增加トナル尙最近十箇年間ニ於ケル平均ハ五千七百三十七人餘ノ增加ヲ示ス。

### 原因別死亡

昭和九年中ニ於ケル原因別死亡ヲ示セバ死亡者千中其ノ最高率ヲ占ムルハ乳兒ノ下痢及腸炎ノ九十人七分、之ニ亞グハ老衰九十八人ニ分、肺炎八十二人八分、下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)七十二人二分、呼吸器ノ結核(氣管及氣管支淋巴線ヲ含ム)六十九人二分、乳兒ノ先天性弱質六十八人七分、腦出血、腦栓塞及脳血栓六十四人四分等ハ最モ著シキモノナリ

### 交 通

### 道 路

交通ノ狀況ハ國道二路線、府県道二百八路線此ノ總延長百九十一萬四百六十三米ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ峻路険坂ト爲リ或ハ幅員狭少ト爲レルヲ以テ毎年之ガ改良ニ比較的多額ノ經費ヲ投ジツツアリ。

### 鐵 道

鐵道ハ總延長三百三十七糸ニ達シ、北陸本線、小瀬線、三國線ノ外ニ私設鐵道七線アリ。更ニ計畫中ニ屬スル越美線ノ開通、見ルトキハ交通上裨益スル所大ナルベシ。

### 諸 車

諸車ハ昭和九年末現在ニ於テ馬車八百十五臺、牛車七十六臺、荷車ニ萬七千七百四十三臺、人力車二百五臺、自動車六百五十三臺、自轉車五萬八千七百五十三臺、其ノ他ノ車四十臺總計八萬八千二百八十五臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的、自動車ハ漸進的ニ增加シ人力車ハ著シク減少シ馬車牛車及荷車等ハ自然減少ヲ示セリ。

### 社寺及宗教

#### 神社及神職

昭和九年末本縣ノ神社總數ハ六百七十四社、神職百九十二人アリ内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十五、鄉社四十八、村社千二百六十八、無格社三百二十七社等ナリ。

#### 寺院及僧侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和九年末ニ於ケル寺院總數ハ六百六十九、僧侶千五百九十七人ニ達シ寺院ニ付世帶數僅ニ七十九ニ當ル、寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ真宗八百七十三最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞グハ曹洞宗ニ百七十六、日蓮宗百四十、天臺宗百十、淨土宗百五、臨濟宗八十、真言宗六十三、時宗二十、黃蘖宗二等ナリ。

### 兵 事

昭和九年ノ壯丁體格検査人員ハ六千四百五十一人、内甲種千六百九十六人ニシテ總員ノ二割六分ニ當リ第一乙種四百十五人(六分)第二乙種千三百四十八人(二割一分)ト爲ル。又丙種二千五百七十一人、丁種四百十八人、戊種三人此等ヲ併セテ四割七分ニ當ル。教育程度ハ高等學校卒業以上及同等ノ者二百五十四人、中學校卒業及同等者七百五十六人、高等小學校卒業及同等者三千九百三十一人、尋常小學校卒業及同等者千三百九十四人、尋常小學校未卒業者及不就學者百十六人ニシテ尋常小學校未卒業及不就學ハ漸次其ノ數ヲ減ジツツアリ。又検査人員中身長ノ最高ハ一米七三五、最底一米三五〇、體重ノ最重ハ八十二石五〇、最輕二三、石四五ナリトス。

### 官 公 吏

#### 縣 職 員

昭和十年八月一日現在ノ本縣職員ハ千五百四十六人ニシテ其ノ俸給年額百五萬五千八百四十一圓ト爲ル。内勅任一人、奏任二十人、同待遇者四十八人、判任百二十九人、同待遇者七百五十二人、縣吏員三百二十八人、傭員(雇員ヲ含ム)二百二十三人、囑託四十五人等ナリ。

#### 市 吏 員

昭和九年末現在ニ於テ市長、助役、収入役名一人、主事二人、技師二人、書記五十二人、技手十五人、事務雇三十七人、囑託五人、總數百六人ニシテ此ノ俸給七萬七千四百九十四圓トナルモ此ノ外名譽職ニ屬スル市長一人、常設委員五人、區長三十八人及區長代理者三十八人等ヲ併セ八十二人アリ。

#### 町 村 吏 員

昭和九年末現在ニ於テ町村長百七十人、助役百六十三人、収入役百五十八人、區長二千三十三人、同代理者千九百二十四人

人、書記六百八十三人、事務雇三十二人、電記箱三十二人、技術員三十五人、常設委員八百五十八人、其ノ他二人、總數六千九十人ト爲リ内名譽職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十万五千百七十六圓ナリ。

## 財 政

### 縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅ニ二十八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年ニ至リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕成圖ルノ必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ト進歩ニ伴ヒ益財政ノ膨脹ヲ來タスニ至レリ。加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ增加ヲ來タシ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ体シテ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通ジテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモノ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民ノ福利增進上已ム得ザルモノ等アル爲昭和九年度ノ決算ハ六百九十二萬九千六百八十一圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度決算ニ比スレバニ百二十四萬八千二百五十九圓ヲ減シタルモ更ニ十年前ノ大正十三年度決算四百四十五萬五千八百六十六圓ニ比シ二百四十七萬三千八百十五圓ノ増嵩ヲ來セリ。

### 市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和九年度ニ於テ市費五十九萬七千二百七十四圓、町村費五百四十三萬七千六百三十九圓（何レモ豫算）ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレバ市町村ヲ通ジテ實ニ約十七倍ニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、產業其ノ他各般ノ施設ニ迫ラレ自然膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

### 諸 稅 負 擔

昭和九年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅百九十萬三千九百三十三圓、縣稅總額二百八十二萬八千九百五十二圓、市町村稅三百二十萬四千五百二十三圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ觀ルモ直接國稅十四圓九十三錢、縣稅二十二圓十九錢、市町村稅二十五圓十三錢ト爲ル。

## 港 潟

### 敦賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ澗內廣潤水極メテ深ク且々暗礁砂洲等ノ障害物ナキ爲大船巨舶ト雖モ運航自在且碇繫安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬圓ヲ投ジテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次テ明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セラルルヤ亦其ノ一ニ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續事業トシテ工費八十萬ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長、棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮標ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期

修築工事トシテ大正十一年度ヨリ直轄工事ヲ起工シ爾來十箇年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投ジテ昭和七年三月竣工セリ。次ニ歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ゲタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頽ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和九年中當港ヨリノ移出ハ四萬六千四百三十六噸價額四百二十六萬九千八百十一圓、移入ハ二十九萬八千二百四十七噸、此ノ價額千四百六十七萬六千五百十一圓ニシテ移出ノ主ナルモノハ蔬菜及果實、雜貨並製品トス蔬菜及果實ハ主トシテ本縣產ノモノニミテ、雜貨ハ京阪地方ヨリ何レモ鐵道ニテ輸送シ來リ北海道（函館、小樽）、北鮮（元山、城津、浦津、郊基）、露領亞細亞、中華民國及滿洲國方面ニ雜貨及菓製品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ產スルモノト縣内產ト併セ北海道、北鮮地方ニ移出セラル。移入ノ重ナルモノノ内石炭ハ北海道及九州地方ヨリ移入シ多クハ鐵道用炭ト爲シ其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消費スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚糞類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ縣内ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線一側ニ移出セラルル狀況ニ在リ。